



創立記念日式辞



本日社会医療法人北斗会、さわ病院創立68周年、北斗会看護専門学校創立43周年、ほくとクリニック病院開設13周年を迎えるにあたり、理事長としてご挨拶いたします。

はじめに、今日表彰された皆様におかれましては、長きにわたり法人の発展に寄与いただき感謝申し上げます。

また現在当院の精神科医療は地域へますます広がり、地域の方々のご理解ご協力なしにはできない状態です。例年この活動にご協力いただいているの方々をご招待しご出席いただいております。今年も同じようにボランティアとしてご協力いただいている11名の方々をお招きしたかったのですが、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み昨年同様本日は御礼のみとさせていただきます。33年前より毎年創立記念日にお招きし、感謝の気持ちを表すために感謝状と記念品を贈呈しています。当院の医療福祉活動に貢献していただいている方で、地域の方、あるいは自らも治療を続けておられる方々です。本当にありがとうございました。

毎年の創立記念日において、理事長より年次方針が発表され、それに基づきISOをはじめとした法人の活動が開始されます。今日多くの管理職の皆様は、別室またはオンラインで参加されていることと思います。できれば直接お一人お一人の顔を見ながらお伝えしたかったのですがかないませんでした。これ

もまたコロナ禍において必要なことと考え前向きにとらえていきたいと思っております。

医療は現在極めて大きな転換点に立っています。しかし医療のみならず、すべての産業が同様の状況にあります。少子化、超高齢社会、生産年齢人口の減少といった国内の状況、また世界に目を向けると米ソ冷戦後のアメリカ強であった状況が一変し、中国と米国の2大大国のはざまの中、アフガニスタン情勢など世界中が大きく動いています。医療はどちらかという国内、地域内のことだけを考えていけばよかったですのですが、この度のコロナパンデミックの問題は世界的規模での衛生資材やワクチンの取り扱いになり、あらためて私たちも世界とつながっていることを実感させられました。また経済への影響も大きく、大規模な財政出動がなされた結果、来年春に予定されている診療報酬改定では今まで以上に逆風が吹くことと思われま

す。このような激動の時代においても、患者様やご家族様はもちろん、かかりつけ医や連携医療機関、行政機関といった方々、さらにはいま働いている従業員や将来の就職希望者に北斗会を選んでいただけるか、今日はみなさんにも一緒に考えて頂きたいと思っております。また、組織において継続性は重要なことです。概ね本年度の方針は昨年度と大きな変更はございません。私たちは過去の活動に基づいて現在があり、さらに将来へと続いていくこと

を謙虚に鑑み実践していきましょう。

それでは本年度の目標を発表します。

診療について、より地域から求められるニーズにこたえられるよう一層の充実をはかります。

法人としてこれからも取り組んでいくこととして、精神科救急、認知症医療、睡眠医療、訪問看護や在宅医療を含むアウトリーチ、災害医療、新型コロナウイルス対策、合併症・リエゾンコンサルテーション、地域連携、社会復帰・就労支援、メンタルケア室の活動があげられます。

精神科救急はあくまで地域精神科医療の一翼です。入院中にしっかり治療し再入院せずとも安心できる体制、やむなく再入院する際は遅滞なく受け入れ、早期に退院できるように治療をすることはもちろんです。安全を大切にしながら、隔離室がないと受け入れられないというステレオタイプに陥らないように、隔離室の必要性を見極めるよう努めてください。ほくとについては病床の関係で受け入れが難しい場合はさわで積極的な連携をすること、高稼働率を維持しながら迅速に対応できる体制をいかに維持していくかということを考えていってください。2つの病院ともに救急病棟への予約入院ということへの違和感を自覚し、待機期間が長い場合状態確認も含め外来受診勧奨や来院できない場合は往診を含むアウトリーチをしていく姿勢をもつことが重要です。診療報酬改定にともなう精神科救急入院料病棟の病床数上限の経過措置期限があと半年となりました。救急体制の維持として、少なくとも経過措置がさらに2年延長できないか、各種団体を通して厚生労働省へ働きかけていますが、診療報酬改定にともなう経過措置が終わることも視野にいれ、さわでは現在の3つの救急入院料病棟体制の再編の可能性も視野に入れた検討をしています。病床再編の有無にかかわらず医療の質をいかに

維持できるのかを大切にしていってください。今まで通り時間帯を問わずしっかり対応できているか、病病・病診連携など地域から必要とされる医療機関であるか、抱え込みではなく開放型のサービスとして地域の中に必要なインフラとしての精神科救急を維持していくことが、おそらく重要なポイントになりそうです。

認知症医療について述べます。認知症疾患医療センターでは精神科、神経内科の医師が配置されています。若手医師の指導をしていくこと、さらには学会専門医などサブスペシャリティの取得を推奨していくことで、より一層診療の質を高めていくことを継続してください。認知症初期集中支援チームなど非自発例をふくむ地域医療へのかかわりでは、行政と協働し、安心して地域での生活が継続できるよう支援を続けていってください。認知症高齢者の入院治療においては高齢であるがゆえに合併症の問題があり、フレイルや低栄養状態などを未然に防ぐため早期発見し予防していくことは重要です。栄養に関する委員会や理学療法など協働しながら進めてください。また利用者目線にかなう形でのケアの個別性を高めていくことを目指してください。

睡眠治療においては、今後も地域の認知度を上げるための情報発信、検査件数の増加、認知症医療との連携を進め、認知症同様若手スタッフの育成もしていくことを目指していきます。

在宅医療、訪問看護については、すでに地域では過当競争の状態になり、困り込み、押し付け型のサービスが増えています。当法人が選ばれ続けるために、質を維持し向上させていくことが大切になります。先代の頃からの記念式典式辞でもありましたが、エバーケア以外に24時間対応ができるか、その為に必要な人員はどう獲得し維持するのか、など地域のニーズを把握し、タイムラインを書い

てどうやれば体制をととのえていくことができるか検討してください。あわせてICTを用いた情報共有、入力などについても検討・実施を進めてください。

災害対策としては、災害拠点精神科病院として院内整備、大阪府下の関連団体との協働訓練、またDPATの派遣も実施してきました。今後も大規模災害に備え、訓練および資材の準備、連携体制の構築に努めてください。コロナ禍との重複災害時にも対応できることが重要で、特に電源喪失に備えた電力確保について具体的な検討が急がれます。

新型コロナ対策としては、対策本部を中心に現場の皆さんも感染防止に努め大変よくやっただけでありません。新型コロナウイルス感染症は本来身体疾患であり、総合病院での治療が望ましいのですが、精神障害を持つ方にとり治療へつながること自体が難しい場合も多く見受けられました。今年3月からは協力型医療機関として感染者の受け入れをしながら精神科救急体制を維持しています。新型コロナウイルス感染症が疑われる場合受け入れまでに時間がかかる状態が精神科でも発生しており、大阪府における精神科救急医療体制が持続できるよう協力していきます。

合併症対策、病病連携を通したリエゾンとして、連携医療機関への精神科医師の派遣を継続します。専攻医は総合病院で半年から1年間の研修をしています。超高齢社会において地域内でも将来的にはリエゾンコンサルテーションに関わる医師が増えるよう、後輩の育成も進めてください。来年からは済生会千里病院への専門医研修を修了した医師の派遣も始まります。大阪府合併症支援システムにおいては豊能2次医療圏での受け入れが少なく南部に偏っていることが課題となっています。当院も広域的な視野に立ち、今より受け入れ体制を拡充していけるか考えてください。

地域連携室について昨年度は新型コロナウ

イルス感染症対応で具体的な動きができませんでした。地域包括ケアシステムの時代において、法人内サービスはもちろん、法人外サービスとの連携においては、利用者目線でサービスの質が維持できているか検証していく必要があります。

社会復帰において、重要となる就労プログラムの再整備においては、重度の精神障害者の方の就労を支援していくため、各部門を超えた連携を一層進めてください。地域内には競合相手が多い分野ですが、精神科病院が連携していることは強みだと思います。

新たな取り組みとしてメンタルケア室が設置され、1年が経過しました。外来受診時や退院後のきめ細やかなサービスでは評価を頂いています。ひきつづき診療の質を上げる働きを継続してください。病院での精神保健相談はもとより、地域へのアウトリーチも含め地域住民の精神的な健康を増進する取り組みを進めてください。将来的には職員のメンタルヘルス向上にも寄与できるか考えてください。

次に法人内の体制整備について述べます。

働き方改革については、有給休暇取得を確実に進めるとともに、時間有給休暇制度については、新型コロナのため発生した遅れを取り戻し確実に進めてください。ピアヘルパーを含め、障害があろうとなかろうと魅力ある職場であるために、職員からの具体的かつ持続可能な提案をしてください。なおフロイデッセンは現在5人のパート職員が、33人の利用登録者に1日平均35食の食事を運んで地域の高齢者の生活を守ってくれています。

教育の重要性について述べます。医療は常に進歩し続けているため、新人のみならず経験者も学び続ける職場であることが重要です。医師においては新専門医制度4年目に入り、採用面接希望者も複数応募いただきました。診療部や専門医制度事務をはじめ関連された

多職種の皆さんの努力の結果です。人の出入りは常にあるため、今後もより一層教育体制の向上につとめ、民間精神科病院において日本一の教育病院を目指すべく、必要な技術知識はもちろん、社会人、さらに医師としての姿勢を指導していただきます。サブスペシャリティについては、若手のみならず経験者も取得していくことを推奨します。医師教育の目指す姿は、日本中どこでも活躍でき世界と渡り合える人材育成であり、学会や論文発表を推奨すると同時に、海外臨床留学希望者へ支援としてフェローシッププログラムも整備しています。

看護においても認定、専門などの取得を励行します。役職者であっても資格をとろうとする姿勢は多くの職員にとり刺激となります。他の職種も組織にとり必要な資格取得状況を確認し、実務運営上支障がでないよう確実に途切れないように層を厚くしていくことを目指します。

環境問題として、以前よりペーパーレスを進めてきましたが、この度のコロナ対策もあわせたタブレット化、オンライン化が進みました。プラスチックごみ対策もあわせて取り組みます。今後は情報通信機器を利用しさらに医療安全を含む診療の質を高めていけるよう取り組んでください。

管理職育成、特に次世代育成は急務です。自分で情報を収集し、自分で考え、アイデアを提案し、承認されたあと、現場に周知し運用しながら、PDCAでより一層の改善を図ること、これができて管理職であることを心にとめて指導していただきます。現在の部門長のみならず、それに次ぐ役職のみなさんは部門長に協力し互いに協働して、今後数年先の世代交代を視野にいれ、自部門の運営に支障がでないよう年単位での後輩の育成、人事案を提案してください。スムーズな継承は組織にとりきわめて重要となります。

経営としては、将来的な施設の大規模改修も視野にいれ、財務状態のさらなる安定を目指します。人的資源の充実は重要ですが、これまでリクルートは部門ごとに個別の提案が上がりがちでしたが、法人全体として優先度を決め、年単位での計画に基づき必要な部門への採用が行われるべきです。これらの意思決定を適切かつ迅速にするためには正確なデータが必要で、それを戦略的に使い、企画立案し、経営決定する体制を構築していくため法人事務局の機能をより強化します。

利用者にとっても従業員にとっても安心安全上必要な施設改修は実施しますが、なお重要なことはサービスの質です。見かけだけきれいでも中身がなければクライアントは離れていきます。当然のことながら、あいさつをすることや時間を守ることなど他の業態では当たり前に行っていることを意識してください。その上で、他の医療機関や他業種の情報を集め、自分たちの置かれている状況がどこにあるのかを意識して、激動の時代を生き抜いていく必要があることを心にとめてください。地域包括ケアシステムの中でニーズにこたえ、選ばれることで、生き残り、さらなる飛躍をしていくことを目指します。

最後に、一番大切なことを伝えます。医療にとり一番大切なことは、安全と安心です。自分の提供しているサービスで、自分の大切な人が安全を感じるだけではなく、さらに安心できるかを物差しにして日常の診療の質を向上していただきます。Always Feel Safe and Comfortable、いつも安全と安心をどうすればバランスよく提供できるかを意識してください。できない理由を探すのではなく、どうすればできるようになるのか、具体的な提案を上げて改善していく姿勢を忘れないでください。

さて本日で北斗会看護専門学校は創立43周年を迎えました。本年3月の国家試験では、

全国平均90.4%のところを、北斗会看護専門学校の現役生は100%で全員合格し、1255名の卒業生たちの多くの先輩はさわ病院やほくとクリニック病院はもちろん、全国各地で活躍しています。開校以来43年が経ち、看護教育の状況も大きく変化しております。学生の気質も医療機関の要請も変わってきており、先代理事長からもあったように運営の在り方も時代に合わせ見直さなければならない点もあります。本日も学校の式辞は学校長よりいただきますので私がふれるのはこのくらいにさせていただきます。

これまでの先人たちの活動をもとに、私たちの世代がしっかり引継ぎ、政策や診療報酬に振り回されることなく、患者様とご家族、地域に役に立ち、職員の生活も守れるように、これからの一年もこころの保健・医療・福祉のあらゆる分野において職員のみなさまの協力をお願いしたいと思います。終わりに社会医療法人北斗会のさらなる発展と皆様のご健康を心からお祈りして私の式辞を結びます。

2021年9月1日

社会医療法人北斗会
理事長 澤 滋



* ご意見箱へのご投稿 *

Q：院内処方窓口の声聞こえにくい。アクリル板のせいもあるのでしょうか？マイクで呼び出せませんか？

A：御意見ありがとうございます。

現在新型コロナウイルス感染対策のため、薬局のお薬をお渡しする窓口にアクリル板を設置しています。薬局ではお薬をお渡しする際、受

付番号ではなくお名前でお呼びしております。患者さまの中にはマイクを通して待合室全体にお名前が響くことが気になる方がいらっしゃいますのでマイクでのお呼び出しはしていません。お名前が聞き取りにくいなどお気づきの点がございましたら遠慮なく窓口にお声をかけてください。アクリル板の外でお名前をお呼びさせていただきます。また、なるべくはっきりとお名前をお呼びするよう職員に指導いたします。ご不便おかけして申し訳ございませんが、何卒ご理解いただきますようお願いいたします。（薬局）

Q：あごマスクの患者さんをたびたび見かけます。ちゃんとスタッフから注意してください。同じ患者の立場から注意して怒鳴られたことがあるので、怖いです。

A：ご指摘の通り、マスクは正しく着用して初めて意味を成すものですので正しく着用していただくことが必要です。お書きいただいているように不必要なトラブルに発展してはいけませんので、お気づきの場合は、職員にお声がけください。職員が対応させていただきます。昨年8月にも同様のご意見をいただいております。あらためて関係部署に周知し徹底するようにいたします。（対策委員会）

Q：内科の呼出しアナウンスの滑舌がわるくて非常にききとりづらいです。せめてもう少しゆっくりしゃべってくれば聞き取れるのですが。診察室からの先生の呼出しは割と聞き取れますが6番はボリュームが小さく、8番は大きすぎて声がつぶれ聞き取りにくかったです。

A：ご迷惑をおかけして申し訳ありません。ボリュームについては確認をさせていただき問題があれば対応いたします。内科の呼び出しにつきましては、医師に伝えわかりやすくお呼び出しするよう注意させていただきます。（看護部）

Q：さわ病院は良い病院と思って参りましたがそれが真逆になる状況に接し、不信感を抱く様になりました。さわ病院は都合の悪いことには隠すのでしょうか。社会は透明性が叫ばれている中、世の中に逆行されていることを発見いたしました。それは、入院患者さんのいる場所の中を見えない様にまた、中から外が見えないようにとドアにカーテンをされて目隠しをされた事です（C2）。今コロナで我が子などに面会是一年以上出来ていない中、時々の洗濯物など届ける際には様子を見るのが、唯一の安心と言えますのに、それを閉じて何の意味があるのですか。患者さん、それをとりまく人達の気持ちを考えて下さい。不信しかありません。場合によっては告発します。考えて下さいますようお願いいたします。

A：C2病棟の入口扉にカーテンを設置させていただいた理由は、ご入院中の患者様のプライバシーを保護するためです。ご理解、ご協力をお願いいたします。ご意見の通り、現在は新型コロナウイルス感染対策の一環として面会等の自粛をお願いしておりますので、ガラス越しに顔を見たいとご希望になられることが少なからずございます。その様なご希望に対しては、可能な限り対応させていただきますので看護職員にお声がけください。（看護部）

Q：B4病棟の看護師2名の家族の対応が悪い。その看護師は家族に逆切れして私たちは不愉快になりました。面会の方にやさしく対応してください。よろしくお願ひします。

A：詳しい状況が分からないのですが、看護職員の対応により不快な思いを感じさせたことにつきましてはお詫び申し上げます。当該病棟を含めた全病棟・外来の看護職員に対し、注意を促すと共に教育指導を行って参ります。（看護部）

Q：B2でお世話になっている者の家族です。B2病棟の看護師さん、掃除や食事 etc かかわって下さっている人に心から感謝しています。

母に笑顔がもどったのも皆さんの温かい接し方 etc でここまで母が穏やかになり本当にありがとうございます。が、1人の看護師さんが入院当初からめっちゃくちゃ感じが悪く、気分が患者さんや患者さんのご家族に接しているのか？いくら何でもナースステーションからどなるか？B2の他の一生懸命接して下さっている方の努力を消すほどのひどい態度で、2度と会いたくありませんし、もう一度、看護師の基本をやり直した方がいいのではないのでしょうか？友人にも看護師が何人もいますけど、本当の意味での基礎をやりなおした方がいいと思うほど腹が立ちます!!

A：ご不快な思いをさせて申し訳ございません。1人の人間の対応の悪さが全体の質を現すものだと思います。ご意見を真摯に受け止め、看護職員の対応のあり方について再度、注意を促し指導を行って参ります。（看護部）

※ロータス編集の基本姿勢として実名での掲載は行っておりませんので、変更させて戴いています。ご了承ください。

※ 原稿募集 ※

皆さんからのご投稿は御意見箱にてお待ち致しております。備え付けの「社会医療法人北斗会へのご意見」用紙にご記入下さい。用紙の下段に掲載のご意向を記入していただいたご投稿についてこの紙面にて回答させていただきます。尚、一つのご意見につき400字以内におさめて下さい。また、多数お寄せ戴いた場合には、順番に掲載させていただきますのでご了承ください。

 * ロータス 社会医療法人北斗会広報 *
 * 第180号 2021年10月10日発行 *
 * 発行責任者：理事長 澤 滋 *
 * 編集担当者：鹿島 裕未 *
 * 印刷所：ときヨシ 印刷部 *
